

2020年3月15日(日)朝10:10~

主の降誕節第11、自由交歓会等

3月第3神学校日公同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題: **預言者のことばの実現**(17節)

聖書: マタイ 12章15~18節

<口語訳>

新約聖書18~ 頁

マタイ 12章15~18節

<新共同訳>

新約聖書22~ 頁

マタイ 12章15~18節

<新改訳第3版>

新約聖書22~ 頁

マタイ 12章15~18節

<塚本訳>

新約聖書100~ 頁

主題: 主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。

◇本日の**12:15～18**は、**御子イエス・キリスト様**が、**異邦人**への宣教に向かう決断をされて、**カペナウム**を去って行かれ、**使徒マタイ**は、**イザヤ42:3の成就**であると告げています。

⇒「**イザヤ42:3の成就**」とは、「**御子イエス・キリスト様**」が、「**神が選んだ僕、神の心になつた最愛の者、神の霊を与え、神が異教人に正義・さばきを告げる者・任命された者**」と、されたことです。

⇒**SY師**の**ことば**を借りると、「①**イエス・キリスト福音**は、**選民**から取り上げられて、**異邦人**や**幼子**に与えられることになるのであります」と、語っておられる**新しい時代**が来たことが、**預言の成就**なのです。

⇒**マタイ11:7**で、**先ず旧約最大最後の預言者ヨハネ**が遣わされました。**マラキ**の**預言**する**エリヤ霊**を持つ**新しい時代の幕開け**です。

本論；

◇本日、**マタイ書12章15～18節**から主の**使信**

に**思い・心** νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ12章15～18節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、「**イザヤ42:3の成就(18)**」のため、カペナウムを去って行かれ、同行する人々の癒しを行われてことを記します。

◇**12:15～18節**；塚本訳◆**イエスの伝道法**

「15 イエスはそれと知って、そこを立ちのかれた。

すると大勢の者がついて来たので、一人のこらずその病気をなおして、

16 自分のことを世間に知らせるなど戒められた。

17 預言者イザヤをもって言われた言葉が成就するためであった。――

18 『これがわたしの選んだ僕、心になつたわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる。』と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**15～16節**；「イエスはそれと知って、そこを立ちのかれた。すると大勢の者がついて来たので、一人のこらずその病気をなおして」、「自分のことを世間に知らせるなど戒められた」。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「それと知って、そこを立ちのかれた」と、「それ」、「すなわち、パリサイ人らの殺害計画」を知り、カペナウムを去られました。

⇒主は、逃げたのではなく、①異邦人伝道へことが**神の計画**であることを知り、②「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」の殺害計画を知り、預言成就へと向かう決断をなされたのです。

⇒主は、死を恐れたのではなく、死の時が来たことを知って、異邦人伝道を決断されたのです。

⇒**安息日の律法違反**での訴えを恐れてではなく、寧ろ、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」らが、**律法違反**して、ヘロデ等との結託して政治行動してまでしても(マルコ3:6)、殺害に向かったのは、嫉妬からでした。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」らに失望して、寧ろ、従って来る群衆を癒しつつ、預言成就の罪を担う僕の道を生き抜く決断をされたのです。

⇒**SY師**は、本来、「**安息日を覚えて、これを聖とせよ**」と命じる積極律法を成就するために、訴えが、**律法違反**の外にあることを示して、**神信仰**を問うておられるのです。

◇**17～18**；「預言者イザヤをもって言われた言葉が成就するためであった。——(17)」、「『これがわたしの選んだ僕、心になつたわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる(18)』」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「これがわたしの選んだ僕、心になつたわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる」わざに専心されました。

⇒**SY師**は、預言成就の意味を①「これがわたしの選んだ僕、心になつたわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる」と、**イザヤ書42:3**「また傷ついた葦を折ることなく、ほのぐらい灯心を消すことなく、**真実をもって道をしめす**」の成就の「**真実をもって道をしめす**」を「正義に勝ちを得させる」、「本当に 正義をもたらず」と訳し、主が、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」が見捨てた**手のなえた人**を**安息日の積極的意味**に従って、癒されたことを示しておられます。

⇒②「これがわたしの選んだ僕、心になかったわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる」と、もはや「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」に福音を委ねておくことが出来ず、異邦人、殊に教会に福音を委ねて下さったことです。

⇒パウロが、罪人の頭と言う者に福音を委ねて下さったことを光栄に思うとともに、益々身を低くして、主にお従いさせたいと願います。

⇒主ご自身が、「宮よりの大きな者(**マタイ12:6**)」と示し、12弟子派遣にあたり、「塚本訳

5 イエスはこの十二人に次のように命じて(伝道に)派遣された。——「(国を離れてはいけない。)異教人の所へ行くな、またサマリヤ人の町に入るな。

6 ただ、イスラエルの家のいなくなった羊(だけ)に行け。」と言われた主のみことばに聴きたい。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日の**12:15～18**は、**御子イエス・キリスト様**が、異邦人への宣教に向かう決断をされて、カペナウムを去って行かれ、**使徒マタイ**は、**イザヤ42:3の成就**であると告げています。

⇒「**イザヤ42:3の成就**」とは、「**御子イエス・キリスト様**」が、「**神が選んだ僕、神の心になつた最愛の者、神の霊を与え、神が異教人に正義・さばきを告げる者・任命された者**」と。

⇒**SY師**のことばを借りると、「①イエス・キリスト福音は、選民から取り上げられて、異邦人や幼子に与えられることになるのであります」と、語っておられる新しい時代が来たことが、**預言の成就**なのです。

⇒**マタイ11:7**で、先ず旧約最大最後の預言者ヨハネが遣わされました。マラキの預言するエリヤ霊を持つ新しい時代の幕開けです。

⇒「それと知って、そこを立ちのかれた」と、「これがわたしの選んだ僕、心になつたわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる」と、殺害を計画する「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」を恐れることなく、異邦人、殊に教会に福音を委ねて下さったことを光栄に思いたい。
⇒最後に、**マタイ12:7、8**をもう一度味わいましょう

「7 もしあなた達に、『わたしは憐れみを好み、犠牲を好まない』という(神の言葉の)意味がわかっていたなら、罪もないこの人たちを(安息日違犯だと言って)咎め立てしなかったであろうに。

8 (わたしの弟子たちに罪はない。)人の子(わたし)は安息日の主人であるから、